

小才角川水系河川整備基本方針

平成 1 5 年 4 月

高知県

目 次

1	流域の概要	1
2	河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
	(1)洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
	(2)河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	3
	(3)河川環境の整備と保全に関する事項	4
3	河川の整備の基本となるべき事項	4
	(1)基本高水並びにその河道及び洪水調整施設への配分に関する事項	4
	(2)主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
	(3)主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	5
	(4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	5

(参考図)

小才角川水系流域図

1 流域の概要

流域の概要

小才角川は、高知県西南部の大月町と土佐清水市との境界に沿って流下する二級河川である。その源は、大月町東部の唐岩地区山岳に発し、山間部を南東に流下して小才角地先で太平洋に注いでいる。その流域面積は5.71km²、幹川延長は9.5kmで、河床勾配も中下流域で1/40～1/120程度と急峻な中小河川である。

小才角川流域は、流域の巾約1kmと縦長の形状で、単軸で支流のない谷川の形状である。流域は、ほぼ山間部よりなり、平地はほとんどなく、河口部にわずかな平地が開け、集落が密集している。また河口部には小才角漁港が設置され、古くから鰹などを対象とした釣り漁業が行われている。

気象・地形・地質状況

小才角川流域は、黒潮の流れる太平洋に面していることから、年間を通じて温暖な亜熱帯性気候を呈し、夏期は高温多湿となるが、冬期は積雪も無く過ごしやすい。降雨量は年間2,000mm程度と高知県太平洋沿岸部では比較的少なく、その大半は梅雨期から台風期に集中している。

小才角川は、標高150～250mの春遠・叶崎山麓地内を北西から南東方向に流下し、太平洋に注いでいる。春遠・叶崎山麓地の山稜は緩斜面であるが、両脇は全般的に急斜面であり、急峻な谷地形を流れている。

小才角川の上流域部では高位・中位の段丘面が、中下流域部では沖積地（一部低位段丘面が残存）が形成されており、古くは水田として利用されていたが、現在は休耕している。

流域周辺の基盤岩は、上流域は四万十帯南帯に属する新生代古第三紀の幡多層群弘見複合層、中下流域は来栖野層よりなる。弘見複合層は、大部分が種々の大きさの岩塊や角礫を多量に含む乱雑な堆積体（混在層）からなる海底地すべり起源の堆積物と整然と累重した礫岩、砂岩、泥岩の互層（整然層）が混在している地質である。来栖野層は整然と累重した砂岩、泥岩の互層（整然層）を主体とし、厚さ数mの厚砂岩層を含む砂岩優勢の互層が中央部で発達する。層理面の走向は東北東 - 西南西方向を示し、北もしくは南へ50～70°で傾斜している。

この基盤岩を被覆して、流域部には泥・砂・礫からなる沖積層および洪積層が分布している。

社会環境

大月町は、昭和32年2月に大内町と月灘村が合併し町制が施行された高知県の西南部に位置する町である。本町の基幹産業は、漁業と農業であるが、小才角川の河口部を含む大月町沿岸は足摺宇和海国立公園に指定されており、風光明媚な地域である。また近年、周辺海域は、磯釣りやダイビングスポットとして全国から注目を浴びている。

小才角川流域は平地が少なく、ほとんどが山林よりなっており、下流域の狭隘な小才角地区に集落が形成されている。小才角地区では住宅以外の平地は、ほとんどが畑地として利用されている。また、河口部には小才角漁港があり、漁業の盛んな地域である。現在、流域内の人口は200人程度と少なく、大月町全体と同様に減少傾向を示している。

治水・利水の歴史

過去の洪水としては、大正9年8月15日の台風により、旧月灘村では家屋の全壊が3棟、流出が3棟という被害にあったと郷土史に記されているが、近年においては、昭和50年代前半に内水による床上浸水などの被害が発生した程度であり、近年は浸水被害を受けていなかった。

しかし、平成13年9月に秋雨前線による豪雨によって、狭隘な谷部の限られた平地に集落が形成されている下流域で氾濫し、床上浸水23戸、床下浸水25戸の浸水被害が発生し、小才角川の治水対策が求められている。

上中流の河川沿いの農地は休耕しているが、下流域の農地は野菜を自家栽培する畑地となっており、農業用水として取水をしている状況は確認できていない。

自然環境

小才角川には、水質観測地点はなく、水質環境基準値も設定されていない。今回実施した観測では、汚濁の度合いを示す代表的な指標であるBOD値で見ると、環境基準のAA類型基準値(1mg/l以下)以下であり、水質は非常に良好であった。

上流域はシイ・カシの常緑広葉樹林とスギ・ヒノキ植林が広がり、それら山林の間を蛇行しながら流れ、わずかに開かれた田畑は放棄されたところが目立ち、人家もほとんどなく、現在は、ほぼ人の手が入られていない。河幅は狭く、勾配もきつい瀬が連続しており、その瀬にはカゲロウ類やクロヨシノボリ・カワムツが生息し、河岸の石下やツルヨシ群落のある水辺ではサワガニ・テナガエビが生息し、カワセミが林

間を飛翔する姿も見られる山深い溪流の様を呈している。

下流域では、わずかに平地が開けており、住宅地と畑として利用されているが、シイ・カシの常緑広葉樹林からなる山が住宅地にせまる自然豊かな環境である。河道は狭く、山と山に挟まれた集落の間をゆっくりと流れるが、小規模な瀬・淵も見られ、その瀬・淵には、クロヨシノボリ、カワムツが生息している。河岸の大部分はコンクリートブロック護岸になっているが水際域や河原にはツルヨシ群落が形成されており、その水際部ではテナガエビが生息し、砂礫質の河床部ではボウズハゼも生息している。また、山地が近接しているため、タゴガエル等の姿も見られ、その豊かな山地を生息域とするサンコウチョウの鳴き声も聞こえる。

太平洋に直接注ぐ河口は、右岸は漁港となっており、コンクリートによる導流堤となっているが、河口部周辺には岩礁海岸が広がり、導流堤の上ではイソヒヨドリがさえずる姿も見られる。

2 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

当該水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川改修の状況、水害の発生状況、河川環境の保全並びに流域の将来像を考慮するとともに、地域住民に対して積極的に河川の情報を提供し、地域住民との関係をより密接にし、小才角川流域の総合的な整備と保全が図れるように努める。

(1)洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減に関しては、計画規模の降雨で発生する洪水を安全に流下させるため、河道の整備を行う。

計画規模を越える降雨や整備途上における洪水が発生した場合においても、被害を最小化するために、高知県総合防災情報システムを用いて関係機関や流域住民へ情報伝達をするとともに、関係機関と連携し、ハザードマップの整備支援や防災訓練への住民参加の呼びかけ等を行い、災害時のみならず平常時から防災意識の向上や水防活動の充実に努める。

(2)河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

今後は河川流況や河川水質の把握に努めるとともに、現況の良好な水質を維持するため、流域住民に対し広報活動や啓発を行い、流域住民と一体となり、河川愛護活動を通じ、良好な河川環境の保全に努める。

(3)河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、みお筋を設けるなど、水生生物の生息環境に配慮した河道整備を行い、現在のクロヨシノボリやカワムツの生息する瀬や淵のある環境やテナガエビの生息するツルヨシ群落の保全に努めることにより、水生生物等の生息・生育環境に配慮し、多様な動植物が生息する水辺環境の保全に努める。

また、流域住民と一体となった河川愛護活動を通じ、現在の良好な水質を保全するとともに、流域の自然豊かな山林と連続性のある河川環境の保全に努める。

3 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調整施設への配分に関する事項

当該水系における基本高水のピーク流量は、平成13年9月等の降雨について検討し、流域面積、資産の集積度を考慮したうえで、基準点^{こさいつの}小才角地点において130m³/sとし、これを全量河道により流下させる。

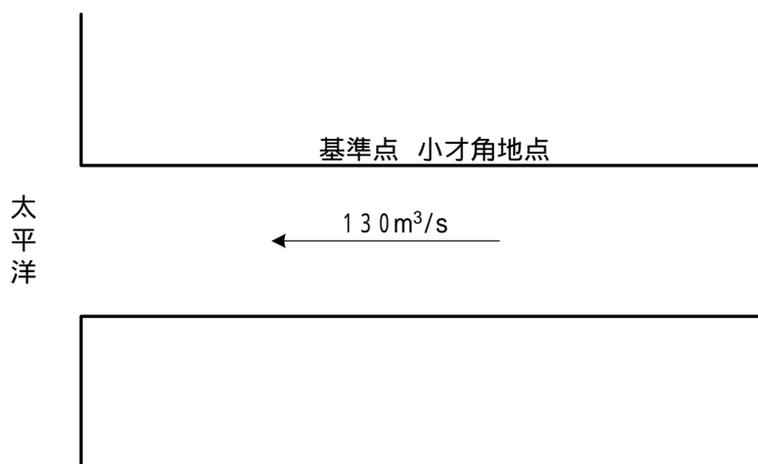
基本高水のピーク流量一覧表

(単位：m³/s)

河川名	基準点名	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
^{こさいつの} 小才角川	^{こさいつの} 小才角	130	130

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

当該水系における計画高水流量は、^{こさいつの}小才角地点において130m³/sとする。



小才角川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位等

河川名	基準点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
こさいつの 小才角川	こさいつの 小才角	0.47	5.70	14

注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

小才角川では、農業用水として慣行水利権がある。現地調査及び聞き取り調査の結果でも、渇水による問題は生じておらず、良好な流況にあるものと思われる。現地調査及び聞き取り調査の結果でも、渇水による問題は生じておらず、良好な流況にあるものと思われる。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、今後、流況等による河川の状況の把握に努めるとともに、流水の清潔の保持、動植物の生息または生育地の状況等に十分配慮し、調査・検討を行い、正常流量を設定するものとする。